

(書式 2)

学会参加報告書

提出日 2014 年 7 月 15 日

学籍番号	14N0008	学系	トレーニング科学系
氏名	平野 智也		
学会等名 (正式名称)	19 th annual congress of the EUROPEAN COLLEGE OF SPORT SCIENCE		
開催日程	2014 年 7 月 2 日 ~ 2014 年 7 月 5 日		
開催場所 (国・都市名)	Amsterdam, The Netherlands		
発表演題名	STEP BY STEP VARIABILITY IN 3D GROUND REACTION FORCES DURING TREADMILL WALKING AT DIFFERENT CONSTANT SPEEDS		
参加報告 ・項目別に具体的に記載する。	<p><学会の全体の印象> 第 19 回ヨーロッパスポーツ科学会議は、オランダのアムステルダムで開催された。大会では、トレーニング、バイオメカニクス、生理学、心理学、栄養学などの幅広い研究発表が行われていた。筆者の専攻しているバイオメカニクスの分野では、若手研究者の発表が多くなっており、積極的な意見交換が行われていた。また、ランニングに関する研究発表が数多くあり、その中でも競技力向上や障害予防の観点からの足の接地の仕方や裸足ランニングの研究が流行していた。</p> <p><自分の研究と関連した発表とその内容> INDIVIDUAL GAIT PATTERNS ARE CHANGING MUCH MORE BY ITSELF HORST, F., EEKHOFF, A., SCHÖLLHORN, W.I. 数時間にわたる歩行試技から地面反力波形の再現性を調査することを目的とした。9 名の被験者は、歩行路で 15 回の歩行試技を 6 セッション行った。各試技における地面反力は、2 台のフォースプレートを用いて 1000Hz で記録した。地面反力の再現性は、セッション間の時間経過とともに高くなった。これは、歩行パターンの違いを示し、動作の変化を示唆する。ヒトの歩行パターンの連続的な変化は、反復的な治療や学習アプローチの再考につながる。</p> <p><自身の発表への質問・コメント> ・歩行中の地面反力は、歩行動作を遂行するための原因となるため、力に着目しているところは興味深い ・歩行の変動に関する要因(スポーツ経験、加齢、動作、筋活動など)を一つ一つクリアにすると良い ・どこの下肢関節が歩行動作の変動に影響を及ぼすのか、関節パワーから確認してはどうか?</p>		

※ 補助金を受けた学生はこの学会参加報告書を提出すること。
提出期限は学会終了後 2 週間以内とする。